

## 令和4年度 全日音研全国大会山口大会（総合大会）盛大に開催

**楽しむっちゃ！音楽 ～響きあう 感動のきずなで～** を大会主題に、素晴らしい秋空のもと、令和4年度全日音研全国大会山口大会・第53回中国・四国音楽教育研究大会が、歴史と文化の町山口で開催されました。

収束と拡大を繰り返すコロナ感染のなか、3年ぶりの対面による開催に心配もありましたが、松田和寛大会会長、松本敏訓大会実行委員長はじめ大会実行委員会の先生方の開催への強い意志が天に通じ、開催計画の全てを充実の内容で実現することができました。

閉会から1週間後、感染第8波が全国で急速に拡大の状況となりました。全国からご参加いただいた800名を越える会員の皆様の“音楽教育関係者が一堂に会する研究大会再開”への強い願いが大きく後押しして下さったと思います。

**音や音楽、音楽文化との豊かなかわり** を幼・小・中・高の全部会が実践研究の中心に位置づけ、研究仮説をしっかりと共有した授業実践が公開されました。

令和元年東京大会から引き継ぎ、令和2年度全国大会群馬大会（小中）茨城大会（高）で開催発表を見ることができなかった事前研究の成果。更に令和3年度の「誌上発表」となった全国大会八戸・三戸大会で深められた、3つの研究視点

1. 主体的・対話的で深い学びの視点にたった授業改善
2. 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる力を育む授業づくり
3. 指導と評価の工夫

を、各校種の授業実践で〈授業改善の3つ窓口〉として学習指導案と授業展開に明確に位置づけでおられました。「育みたい資質・能力の明確化」という研究目的と、研究仮説の具現化を統一的に意識化した授業公開は、5年間の「継続性・連続性を位置づける全国大会」の最終年度となる、令和5年度富山大会にしっかりと引き継がれることと確信いたしました。

**～響きあう 感動のきずなで～** を音楽で見事に表現した、感動のフィナーレは参加者の胸を熱くしました。小郡（おごおり）幼稚園園児の心地よい響きの歌声と喜びが伝わる演技で幕を開けた記念演奏は、暗闇のなかに灯るキャンドルライトの厳かな入場へと続き、記念講演講師の宮川彬良先生のピアノを取り囲む399名の児童生徒が歌う、山口きずな音楽際のテーマ曲「絆」の合同合唱で、音楽教育に携わる参加者の思いを、正に「感動のきずな」で結びつけて大会の幕を閉じました。

